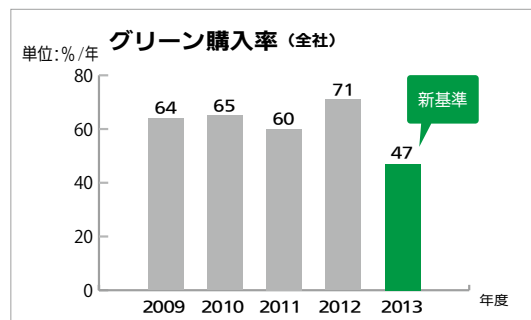


継続的活動の報告

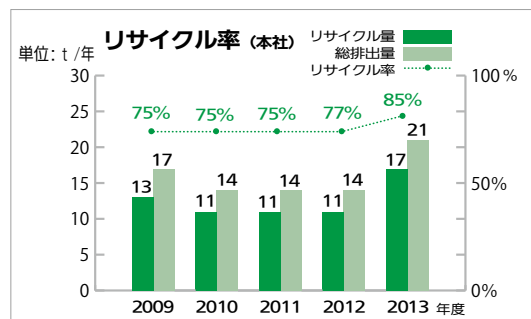
当社では事務所での環境活動として「グリーン購入率」「リサイクル率」「電気使用量」を継続的に集計し、結果の公表を行っています。



●グリーン購入率 (全社)

2013年度のグリーン購入率は47%となりました。昨年度までと比べ低下したように見えますが、今回よりオフィスに加えて現場事務所まで集計範囲を拡大した為です。

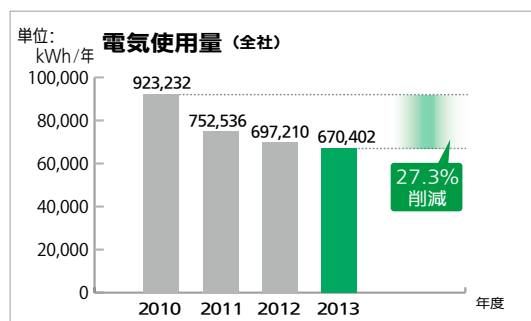
2013年度を新たな基準に再スタートします。今後も事務用品などを購入する際は可能な範囲でグリーン商品を選ぶよう、啓蒙活動を続けていきます。



●リサイクル率 (本社)

右のグラフは本社から排出されたゴミのうち、再資源化されたゴミの量と、総排出量との割合から算出したリサイクル率を表しています。

2013年度は本社耐震化工事に伴う、オフィスフロアの移動などで過年度よりもゴミが多く排出されましたが、雑誌・段ボールなど分別できるゴミの比率が高くリサイクル率が向上する結果となりました。



●電気使用量 (全社)

全社での電気使用量は、※2010年度比で27.3%の削減となりました。当社では2011年度に資源エネルギー庁が推進する「節電アクション」への参加を始め、本社を構える横浜市の節電チャレンジ（市民・事業者・行政が一体となって電気使用量のピークカットを行う試み）など積極的に取り組んできました。現在の削減率は、こうした取り組みを通じて社員一人ひとりが節電に高い意識を持つ事が出来ている結果と考えます。

引き続き社内での啓蒙活動と、外部からの節電・省エネなどに関する情報収集を行い節電を実施していきます。

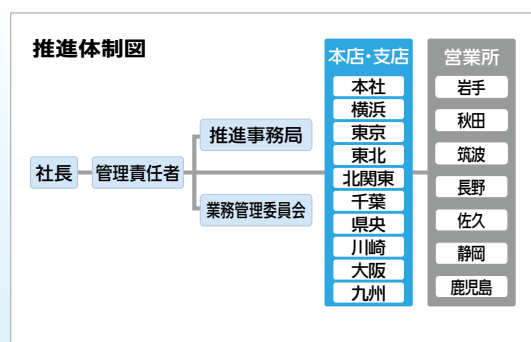
※政府の電力需要対策は2010年度実績を基準とし、横浜市の節電・省エネ対策基本方針も同様に基準を定めていることから、当社でも2010年度の当社実績を基準とします。

環境活動の推進方法

これまで当社では業務の内容により施工系・設計系・事務系の3つに分けて目標を設定し、環境保全活動を展開してきました。

実行力を高めるため、推進方法の見直しを実施した結果、2013年度からは、年度の経営計画に併せて事業所・部署毎に環境に配慮した目標を設定・展開していくことになりました。

環境保全活動は、「環境マネジメントシステム ISO14001:2004」に基づいて運用しています。



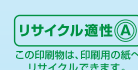
川本工業株式会社

作成：営業本部経営企画部 TEL：045-662-2567

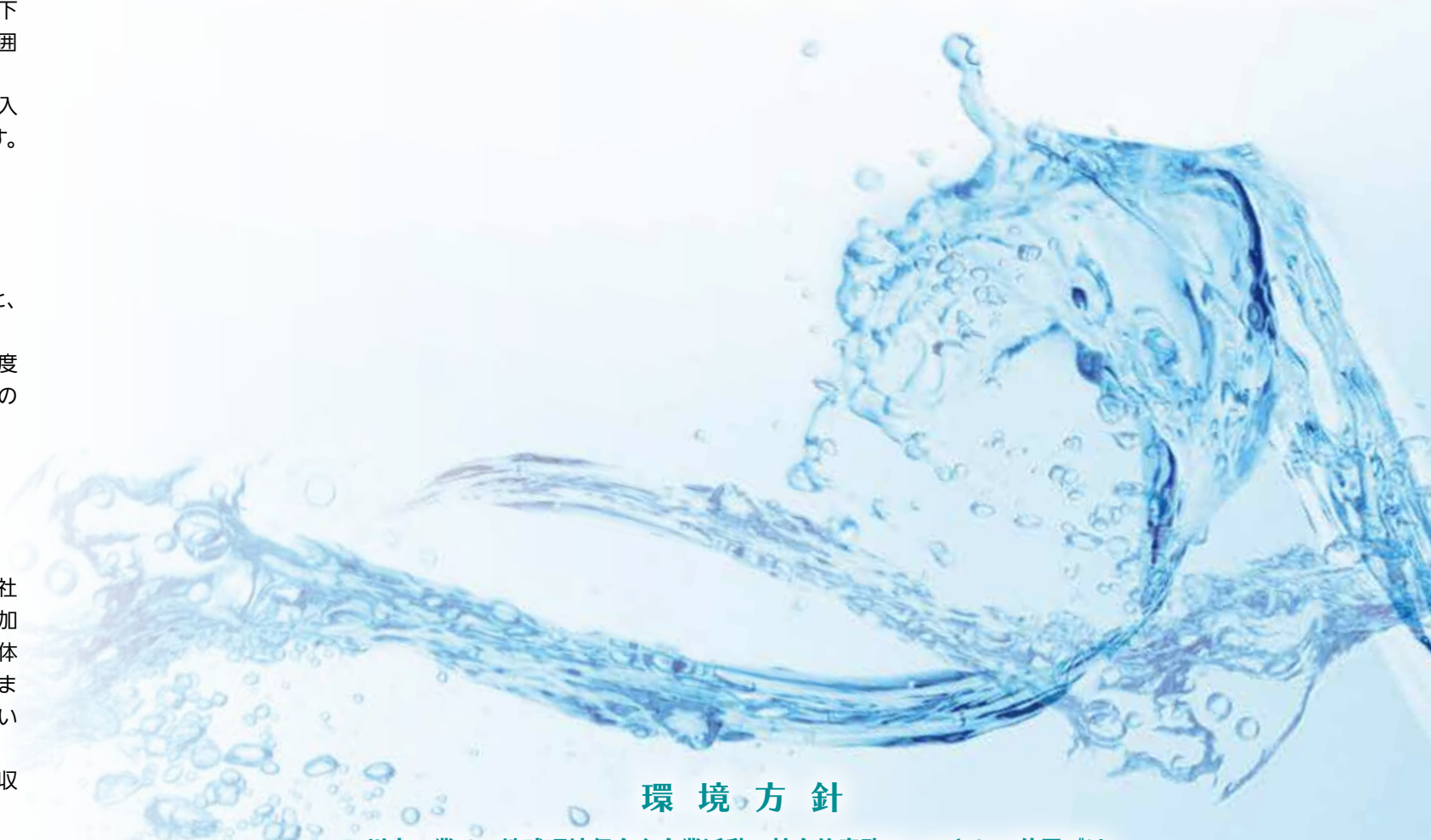
H P：http://www.kawamoto-ind.co.jp/ (川本工業では、ホームページで環境活動の報告を公開しています。)

発行年月：2014年10月 報告対象期間：2013年4月1日～2014年3月31日

違法な伐採がされていない、適切に管理された森林から産出された木材チップを原料にしたFSC®森林認証紙、有害なVOC（揮発性有機化合物）を発生させるものとなる石油系溶剤が0%のノンVOCインキなど印刷資材と製造工程が環境に配慮されているグリーンプリンティング認定工場で印刷しています。また、読みやすさに配慮した書体を使用しています。



KAWAMOTO ENVIRONMENTAL ACTIVITY 川本工業の環境活動 2014



環境方針

川本工業は、地球環境保全を企業活動の社会的責務の一つとして位置づけ、環境に配慮した事業活動を的確な対応により推進する。

1. 各部門は、環境負荷低減のために、適正な環境目的及び目標を設定し、環境マネジメントプログラムを策定して環境保全活動を実施する。

- ① 環境に配慮した設計に努める。
- ② 資源の効率的利用、建設副産物の発生抑制及び工事周辺環境の保全に配慮した施工計画・施工管理に努める。
- ③ 省資源、省エネルギー、リサイクル及び廃棄物発生抑制を推進する日常の業務管理、運営に努める。

2. 環境に関連する法規制、並びに同意可能な業界の規範及び自主的に定める基準などを明確にし、遵守する。

3. 全社員に環境方針の周知を図るとともに、環境に関する教育を実施し、環境保全活動の理解、意識の向上に努める。また当社の事業に係わる協力業者に環境方針の周知を図る。

4. この環境方針を公表するとともに、地域社会とのコミュニケーションを図り、地域の環境保全に取り組む。

以上を継続的に推進し、また改善するため「環境マネジメントシステム」を確立・運用し、定期的に見直しを実施する。

特集 川本工業ビル耐震・省エネ改修工事



川本工業ビル

工事場所：神奈川県横浜市中区寿町
構造：鉄骨鉄筋コンクリート造 地上8階 地下2階
延床面積：9,341㎡
工期：2013年9月～2014年2月



耐震改修済証
表示板(プレート)

弊社では、旧建築基準で建設された本社社屋の耐震化工事を横浜市の補助事業を活用して実施しました。耐震改修促進法の計画の認定を取得して耐震改修を行い、同市の検査に合格した建築物としては45番目となります。

工事概要：

鉄骨鉄筋コンクリート造の構造躯体に対して低層階の側柱の鋼板巻きと、高層階までの鉄骨柱付ブレース設置による補強を行いました。一般的なタスキ型ブレースのほかに、内部空間のブレースには鉄骨柱が通行の妨げにならないマンサード型(横浜市建築設計協同組合『YSK』特許)を採用し、テナントフロア内部や自社フロア内部が分断されない連続的な空間が確保できました。

また、耐震工事と同時に老朽化した空調熱源を交換し、省エネルギー化を図れるGHP(Gas engine driven Heat Pump)へ更新しました。2つの工事を同時に行うことで、多額のイニシャルコストが同時に発生するのを防ぐため、経済産業省の補助事業の活用に加え、*エネルギーサービス方式の導入で費用分散化の工夫をしました。

*エネルギーサービス方式：東京ガスグループ様のソリューション事業。システム設計・補助金活用・エネルギー供給・メンテナンスなど包括的に提供するもの。



補強工事の様子(柱鋼板巻、タスキ型ブレース)



YSK特許のマンサード型のブレース



GHP高効率空調機の導入



オフィス空間の効率化

●耐震化工事に併せたオフィス環境の効率化

本社機能を1～4階の低層階に集約し、環境の良い5～7階の高層階はテナントの床面積を拡張して収益性向上を図りました。また、建物内部のレイアウト変更やOAフロア導入・個別空調を設置し、オフィス空間の効率化と執務環境向上を図りました。1階にはテナントも利用できる、来客用打合せ室も新設しました。

新規に入居された場合には、ご要望に合わせて最適なオフィス空間をご提供いたします。

●省エネ促進ツール『楽省! BEMS』導入

今回の空調設備工事で当社では、東京ガス様が提供する省エネ・節電支援サービスBEMS(Building Energy Management System)を導入しました。本システムは主に業務用の中小規模施設を対象として、電気設備とガス設備の両方を最適に制御する機能があります。

専用のタブレットを利用して、ビル全体のエネルギー使用量と予測量が確認出来るだけでなく、個別空調の使用状況を確認することが出来ます。エネルギー使用の見える化によって施設の管理者と利用者に省エネ・節電行動が促されます。本社ビルの室温設定は、夏季：28℃ 冬季：20℃を基準としています。就業時は室温設定を変更しても1時間ごとに基準温度に戻し、終業時間以降は1時間ごとにエアコンを停止し消し忘れ防止を行っています。

省エネルギー提案 導入事例

鎌倉ファミリー様は創業より80年以上地域に密着した葬儀社として、家族葬から社葬までをサポートしています。今回は神奈川県鎌倉市の「大船斎場」にて、弊社の省エネルギー提案を採用頂きました。

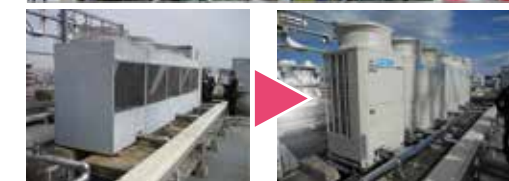
この建物は竣工から18年が過ぎ、当初採用していたEHP(Electric Heat Pump)9系統が経年劣化により冷暖房の効果が低下している事が調査で判明しました。今後、突発的な故障の可能性や機器効率の低下による電気代の増加が見込まれた事から、EHPの最新高効率機器への更新をご提案しました。

高効率機器の導入で、空調にかかる電力消費量は更新前に比べ約44%(建物全体では約10%)の削減、料金は約55万円の削減となる予定です。

今回の提案では空調設備の改修工事に関して、経済産業省の補助金事業を利用しました。また既存の設備を極力再利用することで、工事費用の低減と工期の短縮を図りお客様へのご負担を可能な限り抑えるよう取組みました。



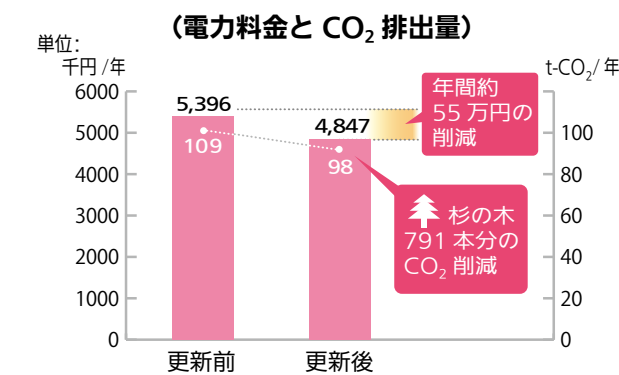
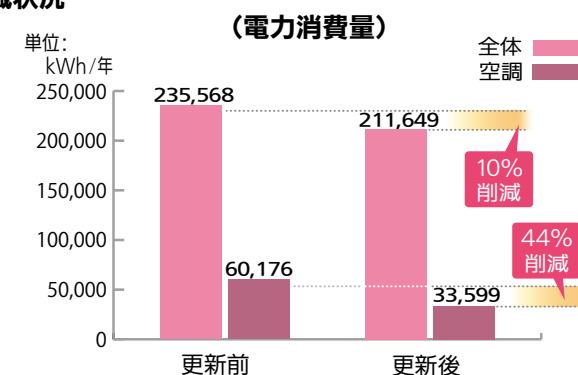
外観 大船斎場



室外機の更新前

更新後

削減状況



施工現場における環境活動の紹介 2013年度

当社施工現場では以下の環境活動に取り組んでいます。実施状況を把握するため、サンプリングを行い結果の報告をしています。

施工現場における廃棄物の分別率	74.9%	資源の効率的利用を図る為、産業廃棄物の分別を推進しています。
資源の効率的利用につながるVE案	246件	適正品質を確保すると共に、資源の効率的利用に繋がる提案を行なうことを推進しています。 *VE(Value Engineering) = 品質や信頼性という機能的価値を低下させずに、製品製造コストの低減を行う方法。
プレ加工	36,836 m	あらかじめ工場で切断・加工した配管部材を、施工現場で組立てることにより、建設副産物の発生抑制を推進しています。
工事周辺環境への配慮実施率	61.8%	アイドリングストップ、計画的な資材搬入等周辺環境に配慮した活動を推進しています。
フロン回収の徹底	897kg	空調機・冷凍機の廃棄の際に発生するフロンガスを、確実に回収し、適切に処理することを徹底しています。

全施工現場における、廃棄物の種類別排出割合

